



学級活動(2)等で役立つ 「新たな交通安全教育指導資料」

「楽しく学び、危険予測能力を高める効果的な展開方法・ワークシート付」

文部科学省『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』準拠



目 次

■ 指導案（１時間扱い）

① 低学年：しんごうきのあるおうだんほうどうをわたるとき	2
② 低学年：あぶない！車のあいだからどうろをわたるとき	5
③ 中学年：止まっている車をよけるとき	8
④ 中学年：自てん車で下り坂を走るとき	11
⑤ 中学年：曲がった道路を走るとき	14
⑥ 高学年：減速した車の左側を追い抜くとき	17
⑦ 高学年：「普通自転車歩道通行可」の歩道を 自転車で行くとき	20
⑧ 高学年：どのようにすれば小学校のまわりの事故を防ぐことができるか ～ 作成したデジタルマップから考えよう ～	23
⑨ １・２年次（中学）狭い道路を自転車で右折する	25
⑩ ３年次（中学）加害者としての責任	27

■ 指導案（短時間扱い）

① 低学年：こうつうルール ほこう	28
② 低学年：こうつうルール じてんしゃ	30
③ 低学年：じてんしゃにのるとき	32
④ 低学年：じてんしゃでとびだしをしたら	34
⑤ 中学年：並んで走ったり、大ぜいで走るきけん	36
⑥ 中学年：信号むしのきけん	38
⑦ 中学年：自てん車で狭い道から広い道へ出るとき	40
⑧ 高学年：加害者にならないために	42
⑨ 高学年：イヤホンを使いながら自転車で走行するとき	44
⑩ 高学年：無灯火運転の危険	46

指導案

(1 時間扱い)

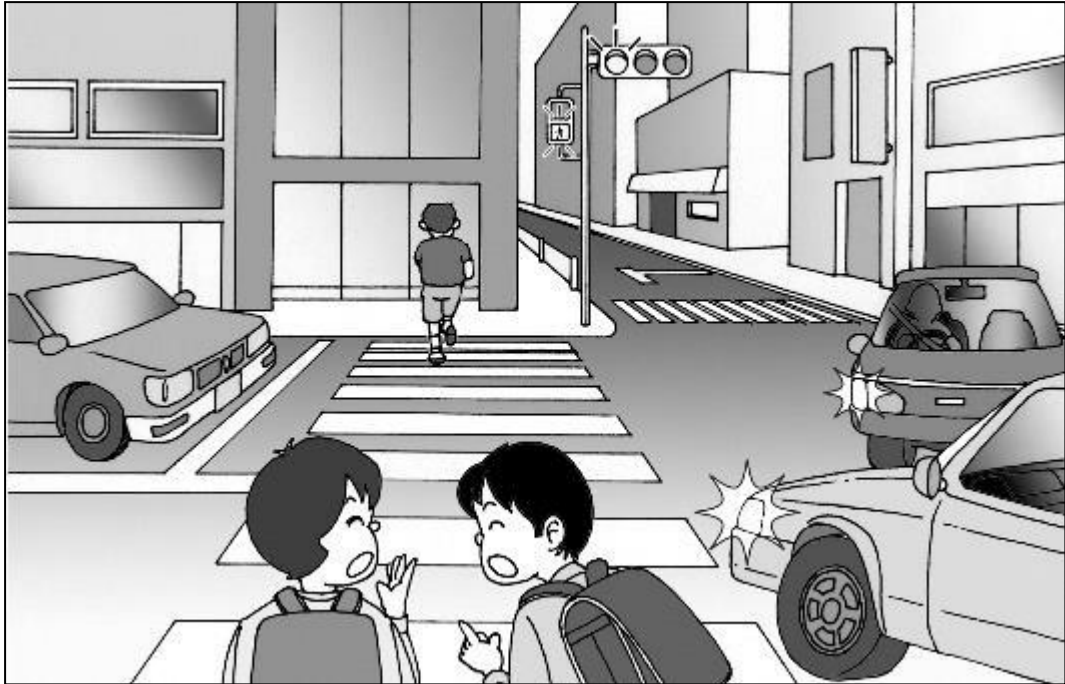
題材名	信号機のあるおうだんほどうをわたるとき		
ねらい	・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。(右左折車両 等) ・横断歩道を渡る際の、安全行動を身に付けられるようにする。 ・交通社会の一員として、周囲へ配慮した歩行や自転車の走行ができるようにする。		
事前の指導	・事前調査の実施 (ヒヤリ・ハット体験 など) ・事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・活動内容	指導上の留意事項 (・) と評価 (☆)	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。	・「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・「ヒヤリ・ハット地図」を作成し、学区の危険箇所を把握させる。 ・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。	調査結果表
	横断歩道を渡ろうとしています。どんな危ないことが起こりそうですか？	・おしゃべりしている。 ・よそ見している。 ・車が曲がってきている。 ・車の方向指示器がチカチカしている。 ・車に気づいていない。 ・車の向こうから右折する車も曲がってくる。	場面絵
さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T 「このまま横断歩道を渡ると、どんな危険が起こりそうですか」 [予想される児童の反応] ・よそ見していて、曲がってくる車に気づかずぶつかる。 ・左折車のかげで見えない右折車とぶつかる。 ・おしゃべりしていて信号が赤に変わる。 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。(なぜ危険なのか理由を明らかにさせる)	ワークシート

見 付 け る	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか、事故の理由を考えましよう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方に関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。	ワ ー ク シ ー ト
	【人的要因】 [油断] ・おしゃべりしている。 ・遊びに夢中。 ・ゆっくり渡っている。 [安全確認をしていない] ・一時停止をしていない。 ・左右確認をしていない。	【環境要因】 [交差点・横断歩道] ・交通量が多い。 ・様々な交通状況が交錯する。 [運転者の心理] ・交差点で、右左折車は早く曲がりたいと思っている。	
	・左折する車と衝突する。 ・左折車に隠れた右折する車と衝突する。 ・左折車の後ろから左折するバイクや自転車と衝突する。 ・左折車の後ろから右折するバイクと衝突する。 ・おしゃべりに夢中で横断途中から信号が赤になり信号待ちの車と衝突する。		
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	T「どうしたら安全に渡れるのでしょうか。安全な行動を考えましよう。」 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・車で隠れて見えない「潜む危険」についても意識させる。	
	具体的な危険回避方法	☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。(思・判・表)【観察・発言】	
決 め る	「しっかり見る」 → 信号が青であっても安全とは限らない。必ず「一時停止」「左右確認」をする。 「しっかり見せる」 → 低学年は特に小さく、運転者から見えにくい。しっかりと手を挙げる。黄色い帽子をかぶる。 「相手からの視点」 → 急いで曲がりたい、横断者より先に曲がろう という心理。歩行者の見落としもある。 「安全のための行動」→上記の安全行動に加え、運転者とのアイコンタクトを。自転車乗車中の場合、停車・降車して安全に横断。		
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	・自分なりの行動基準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。(模擬的な検証) ・重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。	
	○安全行動を適応する。 7 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。	T「横断歩道を安全に渡るためのめあてを考えましよう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆自分のめあてを決めている。(思・判・表)【ワークシート・発言】	
事後の指導	○めあてを教室内に掲示し、各自が目標をもって努力できるよう交通安全の意識化を図る。 ○自分のめあてについて努力したことをふり返り、安全な行動をしようとする意欲を高める。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。		

「しんごうきのある おうだんほどうを わたるとき」ワークシート

なまえ

- 1 「しんごうきのある おうだんほどう」を わたろうとしています。
どんな あぶないことが おこりそうですか？（○をつけましょう。）



- 2 どうしたら、あんぜんに わたれるでしょうか？

- 3 しんごうきのある おうだんほどうを あんぜんに わたるための
「めあて」をかながえましょう。

②小学校低学年 特別活動（1時間扱い）

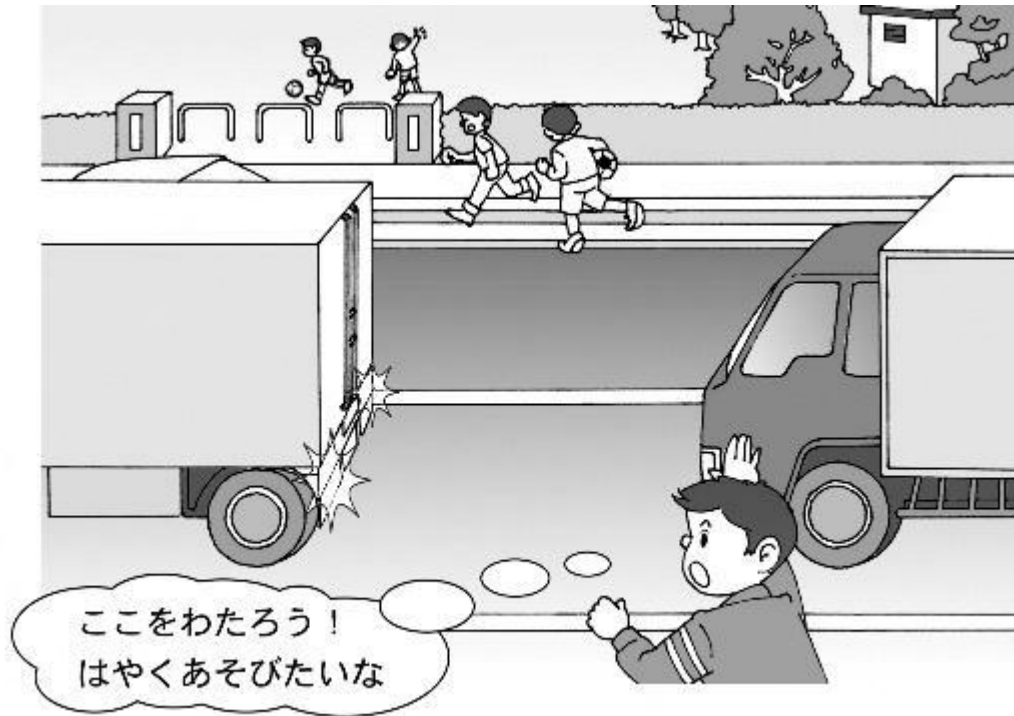
題材名	あぶない！ 車のあいだからどうろをわたるとき		
ねらい	・道路横断時における危険を予測することができる。 ・安全で正しい横断ができるようにする。		
事前の指導	・事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。	・「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。 車の間から道路を渡って、むこうの公園に行こうとしています。 どんな危ないことが起こりそうですか？  〔場面の読み取り〕 環境面 ・手前の車線に車が停車している。 ・道路の反対側に友達が見える。 ・道路の反対側に公園がある。 ・停車している車の間から男の子が道路を渡ろうとしている。 心理面 ・友達と早く遊びたくて急いでいる。	調査結果表
	さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T 「このまま道路を横断したら、どんな危ないことが起こりそうですか。」 〔予想される児童の反応〕 ・右側の車が動き出してぶつかってしまう。 ・左側の車がバックしてぶつかってしまう。 ・走って行って転んでしまう。 ・交通状況から読みとれる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに）

見 付 け る	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。 ・前後の車の死角による危険に注目させる。 ・「急いでいた」など、心理面にも触れる。	ワ ー ク シ ー ト
	【人的要因】 ・ 反対車線から車が来ていることに気がついていない。 ・ 信号が青になって車が動き出すことに気がついていない。 ・ 急いでいる。 ・ 友達の後を追いかけてしようとしている。 ・ 車の運転手が子供に気がついていない。 【環境要因】 ・ 車が停車している。 ・ 反対車線から車が来ている。 ・ 手前の車で反対車線の車が見えなくなっている。 ・ 歩道から車道に出られるようになっている。 ・ 反対車線から走ってくる車に接触する。 ・ 信号が青に変わり、車が発進し、車に接触する。 ・ あわてて飛び出し、転倒する。		
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	T「どうしたら安全に道路を渡れるのでしょうか。安全な行動を考えましょう。」 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・安全な場所（横断歩道・歩道橋）での道路横断、左右の安全確認、急がず落ち着いて行動することなどの観点から具体的な行動を話し合わせる。 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。（思・判・表）【観察・発言】	
	具体的な危険回避方法 ・道路を横断するときには、横断歩道や歩道橋を使い横断する。 ・横断歩道や歩道橋がない道路では、左右の安全を確認し横断する。 ・急いでいる場合も、近くの横断歩道の場所まで行き横断する。 ・路肩に車が停車している場合など、やむを得ず停車している車の間から横断しなければならない時には、左右両方向から車が走ってくる場合があることを考え、停車している車の陰から左右の安全を目で確認してから渡る。		
決 め る	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	・自分なりの行動規準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危機回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。（模擬的な検証）	
	○安全行動を適応する。 7 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。	T「道路を安全に渡るためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆道路を安全に渡るための自分のめあてを決めている。（思・判・表）【ワークシート・発言】	
事後の指導	○めあてを教室内に掲示し、各自が目標をもって努力できるよう交通安全への意識化を図る。 ○自分のめあてについて努力したことをふり返り、安全な行動をしようとする意欲を高める。 ○家族でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。		

「あぶない！車のあいだから どうろを わたるとき」ワークシート なまえ

- 1 車のあいだから、どうろをわたって、むこうのこうえんに いこうとして
います。どんな あぶないことが おこりそうですか？

(○をつけましょう)



- 2 どうしたら、あんぜんに どうろを わたれるでしょうか？

- 3 どうろを あんぜんに わたるとき、 「めあて」 をかんがえましょう。

③小学校中学年 特別活動（１時間扱い）

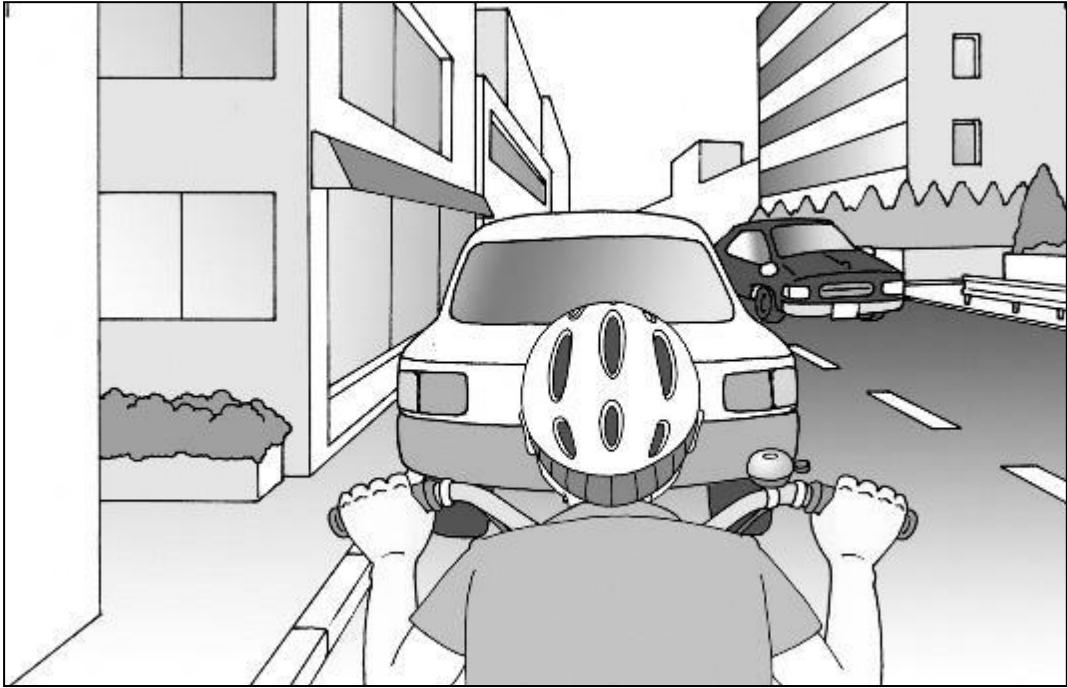
題材名	止まっている車をよけるとき		
ねらい	・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。（対向車 等） ・停車車両を避けて通る際の、安全行動を身に付けられるようにする。 ・交通社会の一員として、周囲へ配慮した自転車の運転ができるようにする。		
事前の指導	・事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・活動内容	指導上の留意事項（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故ニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。 自転車で止まっている車を追い越そうとしています。 どんな危険が起こりそうですか？ 	・「交通事故の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。 〔場面の読み取り〕 ・自転車に乗っている。 ・縁石があつて、歩道に入れない。 ・左側は狭くて通れなさそう？ ・右から追い越さないといけない。 ・車の中の様子は？	調査結果表
		・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」 〔予想される児童の反応〕 ・車を右側に避けると、対向車とぶつかる。 ・車を右側に避けると、後続車とぶつかる。 ・車の前から人が出てきてぶつかる。 ・自動車のドアが開いてぶつかってしまう。 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに）	ワークシート

見 付 け る	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。
	【人的要因】 ・安全確認をしない（めんどくさい） ・油断（たぶん、大丈夫だろう） ・避けようとして大きく対向車線にはみ出してしまう。（運転技術）	【環境要因】 ・停車車両による死角（対向車・横断者） ・縁石のため左側の歩道に入れない。 ・後続車の危険 ・停車の目的（降車のためドアが開き衝突）
	・自転車が急に右側に進路変更すると、同様の後続車から追突される。 ・停車車両の脇を通過中、降車のため急に右側のドアが開き衝突する。 ・前方の対向車と逃げ場がなくなり衝突。	
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	T「どうしたら危険を防ぐことができますか？ 安全な行動を考えましょう。」 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・単に「一旦停止する」「安全確認をする」というのではなく、交通場面の特徴等を含め具体的に発表させる。 ・車で隠れて見えない「潜む危険」についても意識させる。 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。（思・判・表）【観察・発言】
決 め る	具体的な危険回避方法 「しっかり見る」 → 道路中央に出る前に、前方・後方の安全確認。（停止・降車） 「しっかり見せる」 → 後続車両がある場合は一時停止、やりすごす意志を示す。 「相手からの視点」 → 対向車からは、自分が見えない。出て来ると思わない。 「安全のための行動」 → 停車車両の様子に気を配り、対向車・後続車の確認をしてから側方を徐行することが大切。より安全な行動としては自転車を停車・降車して安全確認。	
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	・自分なりの行動基準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。（模擬的な検証） ・重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。
	○安全行動を適用する。 7 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。	T「止まっている車を安全に追い越すためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆止まっている車を安全に追い越す自分のめあて決めている。（思・判・表）【ワークシート・発言】
事後の指導	○めあてを教室内に掲示し、継続して互いに努力できるよう交通安全への意識化を図る。 ○めあてをもとに、自分の生活についてふり返り、安全に自転車を走行しようとする意欲を高める。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。 ○保護者や地域と連携した「地域安全マップづくり」を通して学習内容の定着を図る。	

「止まっている車をよけるとき」ワークシート

名 前

- 1 自てん車で、止まっている車を追いこそうとしています。
どんなきけんがおこりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）

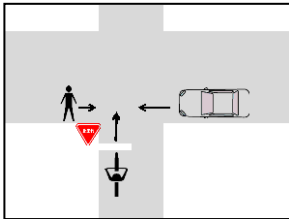


- 2 どうしたら、きけんをふせぐことができますか？

- 3 止まっている車を安全に追いこすための「めあて」を考えましょう。

④小学校中学年 特別活動（１時間扱い）

題材名	自てん車で下り坂を走るとき		
ねらい	・飛び出しの危険性を理解し、下り坂で安全に自転車の走行ができるようにする。		
事前の指導	・事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。	・「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・事前調査の結果を知らせ、自転車走行時の危険について知らせる。 ・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。	調査結果表
	下りの坂道を走って、友達の家遊びに行くところです。どんな危険が起こりそうですか？ 	[場面の読み取り] 環境面 ・下り坂を自転車で走っている。（スピードが出ている） ・前方に交差点があるが、高い塀で見通しが悪い。 ・交差点の手前に止まれの標識がある。 心理面 ・友達と早く遊びたくて急いでいる。 ・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T「このまま自転車で走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」 [予想される児童の反応] ・交差点の壁で見えない左右の道から自動車、バイク、自転車や歩行者が飛び出してきて接触する。 ・スピードの出し過ぎによって転倒する。 ・交差点で、後方から来た左折車に巻き込まれる。 ・後方から来る自動車やバイクと接触する。 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに）	ワークシート

見 付 け る	4 事故の理由を考える	T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えま しょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって 起こることが多いことを理解させて、児童が事故をど のように避けられるか、考えやすくさせる。	ワ ー ク シ ー ト
	【人的要因】 ・遊ぶことばかり考えている。 ・急いでいて自転車のスピードを出している。 ・塀の向こう側の自動車等に気づいていない。	【環境要因】 ・道幅の狭い、下りの坂道である。 ・交差点には止まれの標識がある。 ・周りに高い塀があり、交差点の見通しが悪い。	
	・交差点に飛び出して、自動車や歩行者などと接触 ・スピードの出すぎで、一時停止できず転倒 ・後方から来る自動車やバイクに気づかず接触		
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行 動）を選定する。	T「どうしたら危険を防ぐことができますか。安全な行動を 考えましょう。」 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・単に「一時停止をする」「安全確認をする」というの ではなく、交通場面の特徴や死角での動き等を含め、 具体的に発表させる。 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。(思・判・表)【観察・発言】	
	具体的な危険回避方法 「しっかり見る」 → 交差点では一時停止して左右の確認をする。後方にも気を配る。 「しっかり見せる」 → 後方車両には一時停止する意思を示す。 「相手からの視点」 → 壁の向こう側などの見えないところの状況を予測しながら交差点に近づく。 「安全のための行動」 → ブレーキを使って減速する。交差点では必ず一時停止する。		
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法 (安全行動)を検証する。 	・自分なりの行動規準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表しあい、理解を深めさせる。 ・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し 合って確認させる。(模擬的な検証) ・自転車＝車両であり、減速や一時停止、安全確認などの 行動の大切さを認識させる。 ・俯瞰図（左図）を用いて検証する。	
決 め る	○安全行動を適応する。 7 安全行動を実践でき るようにめあてを自 己決定する。	T「自転車で下りの坂道を安全に走行するためのめあてを考え ましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあて を持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆下りの坂道を安全に走行するための自分のめあてを決めている。(思・判・表) 【ワークシート・発言】	
事後 の 指導	○めあてを教室内に掲示し、継続して互いに努力できるよう交通安全への意識化を図る。 ○めあてをもとに自分の生活についてふり返り、安全に自転車を走行しようとする意欲を高める。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。 ○保護者や地域と連携した「地域安全マップづくり」を通して学習内容の定着を図る。		

「自てん車で下り坂を走るとき」ワークシート

名 前

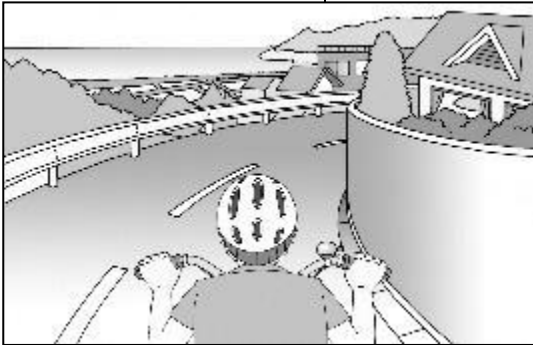
- 1 下りの坂道を走って、友達の家遊びに行くところです。
どんなきけんがおこりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）



- 2 どうしたら、きけんをふせぐことができますか？

- 3 自てん車で下りの坂道を安全に走るための「めあて」を考えましょう。

⑤小学校中学年 特別活動（１時間扱い）

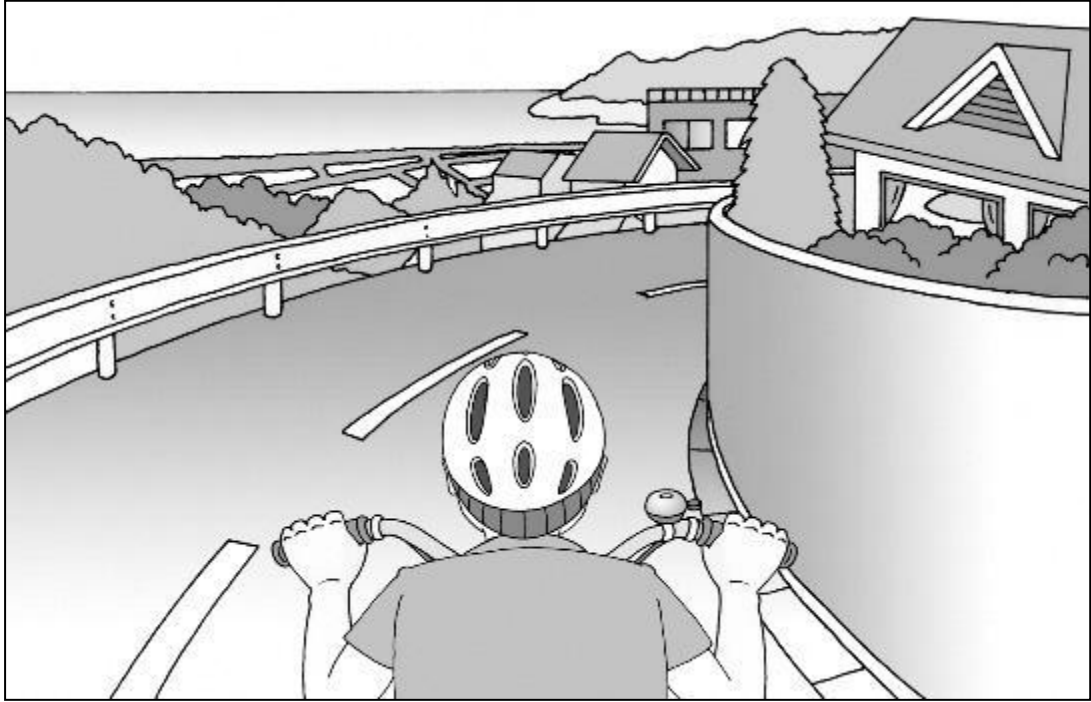
題材名	曲がった道路を走る時		
ねらい	・ 右側通行の大切さを理解し、実行する意欲と態度を育てる。 ・ 潜在的な危険を読み、自転車の安全な運転ができるようにする。		
事前の指導	・ 事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・ 事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。	・ 「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・ 身近な交通場面の絵や写真を掲示する。 前がよく見えない曲がった道を、自転車で走っています。どんな危険が起こりそうですか？  〔場面の読み取り〕 環境面 ・ 道路が右に曲がっている。 ・ カーブのため前方が見にくい。 ・ 周囲に車が走行していない。 ・ 自転車が右側通行している。 心理面 ・ 周囲に車がないため、安心した気持ちで運転。	調査結果表
		・ 交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」 〔予想される児童の反応〕 ・ 右側通行している。 ・ 道路の先が見えない。 ・ 車（自転車、歩行者）がいるかもしれない。 ・ 向こうからくる車（自転車・歩行者）にぶつかる。 ・ 交通状況から読みとれる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに） ・ 児童自身が加害者になることにも目を向けさせる。	ワークシート

見 付 け る	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。 ・見えないところの危険や右側通行をしていた。 ・「急いでいた」などの心理面にもふれる。	ワ ー ク シ ー ト
	【人的要因】 ・道路が右に曲がっており、前方が見えにくいことに気づいていない。 ・見えないところに自動車や自転車・歩行者がいるかもしれないことを意識していない ・急いでいる。 ・周囲に車がないため安心してしまっている。	【環境要因】 ・道路が右にカーブしている。 ・右側通行をしている。 ・前方が見えにくい。 ・人や車の通行がない。	
	・前方から来る自動車(自転車・歩行者)に衝突する。 ・自転車や歩行者に衝突したときは相手にケガをさせてしまう。 ・衝突しないまでも転倒してしまう。		
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	T「どうしたら危険を防ぐことができますか。安全な行動を考えましょう。」 ・前方を注意する。 ・左側を走る。 ・スピードを出しすぎない。 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・前方に潜む危険について常に意識させ、左側通行や交通ルールを守るなど具体的に話し合わせる。 具体的な危険回避方法 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。(思・判・表)【観察・発言】 ・自転車で道路を通行するときは、常に交通ルールを守る。 ・曲がった道路を走るときは、見えないところにある危険について予測し通行する。	
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	・自分なりの行動規準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危機回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。(模擬的な検証) ・歩行者の視点、加害者になる可能性も気づかせる。	
決 め る	○安全行動を適応する。 7 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。	T「前がよく見えない曲がった道を安全に走るためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆見通しの悪いカーブした道を安全に走る自分のめあてを決めている。(思・判・表)【ワークシート・発言】	
事後の指導	○めあてを教室内に掲示し、継続して互いに努力できるよう交通安全への意識化を図る。 ○めあてをもとに、自分の生活についてふり返り、安全に自転車走行をしようとする意欲を高める ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。 ○保護者や地域と連携した「地域安全マップづくり」を通して学習内容の定着を図る。		

「曲がった道路を走る時」ワークシート

名 前 _____

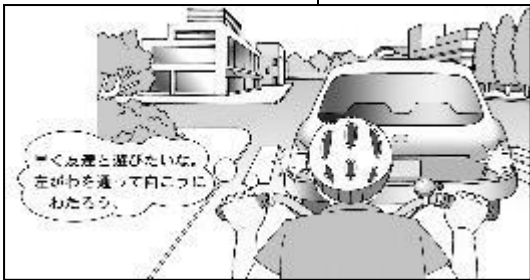
- 1 前がよく見えない曲がった道を、自転車で走っています。
どんな危険が起こりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）



- 2 どうしたら、危険を防ぐことができますか？

- 3 前がよく見えない曲がった道を安全に走るための「めあて」を考えましょう。

⑥小学校高学年 特別活動（１時間扱い）

題材名	減速した車の左側を追い抜くとき		
ねらい	・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。（巻き込み等） ・減速車両後方における、自転車の適切な運転方法を身につけられるようにする。 ・交通社会の一員として、歩行者等への思いやりのある運転ができるようにする。		
事前の指導	・事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。	・「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。	調査結果表
	交差点を直進しようとしていたら、前の自動車がスピードを落としました。どんな危険が起こりそうですか？ 	〔場面の読み取り〕 環境面 ・車のブレーキランプがついた。 ・前に交差点がある。 ・車のため前の様子が見えない。 心理面 ・友達と早く遊びたくて急いでいる。 ・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」 〔予想される児童の反応〕 ・減速した自動車に追突する。 ・自転車が直進したところを自動車が左折して衝突する。 ・自動車の奥に対向車が出て、右折してきて衝突する。 ・自動車の奥から歩行者が出てきて衝突する。 ・自動車のドアが開いてぶつかってしまう。 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに）	ワークシート

見 付 け る	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。	ワ ー ク シ ー ト
	【人的要因】 ・急いでいる。 ・遊ぶことを考えている。 ・自動車の先に歩行者や対向車がいるかもしれないことに気づいていない。 ・自動車の運転手にとって自転車は死角に入っている可能性がある。	【環境要因】 ・道幅の広い交差点である。 ・横に伸びる横断歩道はあるが直進方向の横断歩道はない。 ・自転車でも簡単に入れる歩道がある。 ・自転車にとって自動車の奥が死角になっている。	
	↓ ・自転車が直進したところを自動車が左折して衝突する。 ・自動車の奥に対向車がい、右折してきて衝突する。 ・自動車の奥から歩行者が出てきて衝突する。 ・自動車の減速に間に合わず、衝突してしまう。		
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	T「どうすれば危険を防ぐことができますか。安全な行動を考えましょう。」 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・単に「一時停止をする」「安全確認する」というのではなく、交通場面の特徴・死角での動き等を含め、具体的に発表させる。 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。(思・判・表)【観察・発言】	
決 め る	具体的な危険回避方法 「しっかり見る」 → 自動車の減速・停止は、左折の他に歩行者や対向車など何らかのサインであるため、よく周囲を確認する。 「しっかり見せる」 → 死角があることを知り、自動車の運転手が気づいていないことを念頭に置いて自分の存在を知らせる。 「相手からの視点」 → 自動車が止まってくれたと安心し、歩行者や対向車が自転車に気づかないことがあるため、徐行や一時停止で確認・知らせる。 「安全のための行動」 → 自動車が減速・停止したら必ず徐行・一時停止する。		
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	・自分なりの行動規準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危機回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。(模擬的な検証) ・歩行者の視点、加害者になる可能性も気づかせる。	
	○安全行動を適応する。 7 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。	T「自転車で交差点をわたるとき、安全に自動車を追い抜くためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆安全行動を実践できる自分のめあてを決めている。(思・判・表)【ワークシート・発言】	
事後の指導	○めあてを教室に掲示し、粘り強く努力できるよう交通安全への意識化を図る。 ○めあてをもとに、自分の生活についてふり返り、安全に自転車走行しようとする意欲を高める。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。 ○保護者や地域と連携した「地域安全マップづくり」を通して学習内容の定着を図る。		

「減速した車の左側を追い抜くとき」ワークシート

名 前



- 1 交差点を直進しようとしていたら、前の自動車がスピードを落としました。どんな危険が起こりそうですか？

- 2 どうすれば危険を防ぐことができますか？

- 3 自転車で交差点をわたるとき、安全に自動車を追い抜くための「めあて」を考えましょう。

⑦小学校高学年（1時間扱い）

題材名	普通自転車歩道通行可で歩道を自転車で通行するとき		
ねらい	・ 自転車で通行可能な歩道を走行する際、当然歩行者のためのものであることを理解する。 ・ ガードレール等で区切られていて、歩行者等を避けるスペースが少ない等の危険を予測して状況に応じた安全な走行ができる。		
事前の指導	・ 事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・ 事前調査の集計、分析		
観点	学習内容・学習活動	指 導 上 の 留 意 点（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから感じたことを発表する。 2 問題場面を知る	・「交通安全の現状」「事件事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。	調査結果表
	「普通自転車歩道通行可」の歩道を走行しています。前には幼児を連れたお母さんとお年寄りがいます。どんな危険が起こりそうですか？  環境要因 ・ お年寄りと親子が歩いている ・ 歩道を走っている・道幅が狭い 心理要因 ・ 前に人がいてじあまだと思っている ・ 運転が上手だと思っている		場図絵
さぐる	○場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T 「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」	ワークシート
[予想される児童の反応] ・ 小さな子が急に目の前にとび出してきてぶつかる。 ・ お母さんがあわてていて、子どもを抱きかかえ、急に目の前に出てきてぶつかる。 ・ お年寄りの方がよろけて、自転車の前に出てきてぶつかる。 ・ 親子とお年寄りで歩道がふさがれてしまい、避けようとして右側のガードレールとぶつかってしまう。		・ 交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる（なぜ危険なのか理由を明らかに） ・ 個人→グループ→全体という話し合い活動を持つ。 ・ お年寄りと親子両方が複合して起こる問題等も考えられるよう補助発問する。 ・ 場面人物の心理状態なども注目させる。	

見 付 け る	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか？事故の原因を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が係わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。 ・特に人物の心理的な要因や置かれている状況等にも注目させ、事故が起こる場合の対象者のことも考えられるようにさせる。(子どもがはしゃいでいる、お年寄りの方は音を聞き取りづらいなど)
	【人的要因】 ・前をよく見て走行していない。 ・急いでいる。 ・お年寄りの方や親子が自転車に気付いていない。 ・お年寄りの方や親子でふさがれてしまう。	【環境要因】 ・自転車が走行できる歩道である。 ・歩道なので幅が狭い。 ・ガードレールがあり道幅が狭い。 ・横断歩道がある。
	・お年寄りの方や親子との接触 ・お年寄りや親子を避けようとして花壇と接触 ・バランスを崩して転倒 ・横断歩道や住宅からの歩行者との接触	
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する 具体的な危険回避方法	T「どうすれば危険を防ぐことができますか。安全な行動を考えましょう。」 ・発表された危険は、どのようにしたら避けられるかについて考えを発表させる。 ・なぜ事故を回避できるのか理由も一緒に発表させる。 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。(思・判・表)【観察・発言】
決 め る	「しっかり見る」 → お年寄りや子ども連れの方へ近づく前に、状況や回りの障害物の確認。 「しっかり見せる」 → 近づく前に、ベル等で自転車の通行を知らせる。 「相手からの視点」 → 後方からの自転車には気付いていない、見えていない。 「安全のための行動」→ 前方のお年寄りや子ども連れの方に気を配ると共に、後方からの自転車に注意しながら側方を徐行する、又は降車して自転車を押せばより安全である。	
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	T「実際にどの方法で事故を防げるか話し合ってみましょう。」 ・環境要因を評価して安全を生み出すものが自分（たち）の行動であることを振り返りながら、6で考えた方法的確さを確かめさせる。 ・グループで協議させ、より考えを深めさせる。
	○安全行動を適応する。 7 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。	T「自転車で歩道を安全に走行するためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、自転車の安全な走行を目指し、各自が行動目標を立てる。 ☆歩道を安全に走行するための自分のめあてを決めている。(思・判・表)【ワークシート・発言】
事後の指導	○めあてを教室内に掲示し、粘り強く努力できるよう交通安全への意識化を図る。 ○めあてをもとに、自分の生活についてふり返り、自転車を安全に走行しようとする意欲を高める。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。	

名 前



- 1 「自転車通行可」の歩道を走行しています。前には幼児を連れたお母さんとお年寄りがいます。どんな危険がおこりそうですか？

- 2 どうすれば危険を防ぐことができますか？

- 3 自転車で歩道を安全に走行するための「めあて」を考えましょう。

⑧小学校高学年（１時間扱い）

題材名	どのようにすれば小学校のまわりの事故を防ぐことができるか ～ 作成したデジタルマップから考えよう ～		
ねらい	・ヒヤリハットした経験やフィールドワークの情報を基に作成したデジタル安全マップの情報を比較したり、関連付けたりしながら、小学校学区で自分たちの安全を守る方法を考えている。 ・小学校学区で安全に過ごすための方法や考えを分かりやすく表現することができる。		
事前の活動	・事前調査（フィールドワーク）の実施（学区の危険箇所を調べる） ・事前調査の集計、分析した情報をデジタル安全マップとして作成		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
つかむ	○問題を把握する。 1 デジタル安全マップを見て、気付いたことを共有する。 2 学区の危険と感じた場所の特徴を知る。	・「デジタル安全マップ」から学区の交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・身近な学区の危険と感じた場所の特徴を色分けしたデジタル安全マップを表示する。 アイコンの色別：環境要因 赤：「見通しが悪い」 黄：「道幅がせまい」 緑：「交通量が多い」 紫：「その他の危険がある場所」 ※一人ひとり自分のタブレットで安全マップを見て気付いたことを発表する。	デジタル安全マップ
さぐる	○場面を分析する。 [予想される児童の反応] ・「学区の端では大きい道路が通り、緑の印が多いから交通量が多い」 ・「小学校のすぐ近くの道路は狭くて見えにくい場所が多い」 3 本時のめあてを確認する。 どのようにすれば小学校の学区の事故を防ぐことができるか考えよう。 4 学習の流れを確認する。 5 場所の特徴ごとに集まったグループ内で各自が安全マップでヒヤリと危険を感じた場所を紹介し、グループ内で一番危険と感じられる場所を話し合って決める。 6 その場所で起こりそうな事故の原因を考える。	T「どの辺りにどのような危険な場所が多いですか？」 ・場所の特徴を示した色ごとで分けたグループで活動する。 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。Google ストリートビューを提示して、なぜ危険なのか理由を明らかにする。 T「そこでは、どうして事故が起きるのでしょうか？事故の原因を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が係わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか考えやすくさせる。 ・特に人物の心理的な要因や置かれている状況にも注目させる。	ワークシート

見 付 け る	【人的要因】 ・友達と一緒に下校していると話に夢中になり、前をよく見ていない。 ・待ち合わせに遅れそうで急いでいる。 【環境要因】 ・広い大きな交差点で横断歩道が長い。 ・歩道なので幅が狭い。 ・ガードレールがなくて道幅が狭い。 ・信号がすぐ変わってしまう。 ・カーブミラー等を見落として、交差点で車と接触 ・狭い道路や歩道を走行中に歩行者を避けようとして車と接触 ・バランスを崩して転倒 ・横断歩道や住宅からの歩行者との接触	ワ ー ク シ ー ト
	○仮説を設定する。 7 危険回避方法（安全行動）を選定する。 発表された危険（事故）は、どのようにしたら避けられるかについてワークシートに書いた各自の考えをもとに、話し合っ てグループのまとめを作る。 具体的な危険回避方法 「しっかり見る」 → 一時停止する。左右をよく見る。カーブミラーで確認する。 「しっかり見せる」 → 近づく前に、ベル等で自転車の通行を知らせる。 「相手からの視点」 → 見通しの悪い交差点では急な自転車には気付いていない、見えていない。 「安全のための行動」 → 駐停車車両の側方は徐行する、又は降車して自転車の押し歩きする。	
	○仮説を検証する。 8 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。 グループでまとめたことを発表し、全体で共通したキーワードを見つける。 T「実際にどの方法で事故を防げるか話し合ってみましょう。」 ・環境要因を評価して安全を生み出すものが自分（たち）の行動であることを振り返りながら、7で考えた方法の的確さを確かめさせる。 ・各グループの発表の中から、共通した危険（事故）を防ぐ方法について考えさせる。「止まる」「見る」「確かめる」 ・グループで協議させ、より考えを深めさせる。	
	○安全行動を適応する。 9 安全行動を実践できるようにめあてを自己決定する。 T「本時のめあてに即して、自分でできる安全行動をワークシート記入しましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、今後、各自の行動目標を立てる。 ☆小学校校区の中で安全に行動するための自分のめあてを表現することができる。（思・判・表）【ワークシート・態度】	
事後の活動	○めあてをもとに、自分の生活についてふり返り、粘り強く努力できる交通安全への意識化を図る。 ○低学年やスクールガードなど学習内容を伝えたり、地域全体で安全意識を高める必要に気付かせる。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。	

中学校 1・2 年次 (中学校)「狭い道路を自転車で右折しようとしています」

目標	交通状況から起こりうる危険を予測する。結果を役立てて、安全な自転車走行ができるようにする。
----	---

指導案

観 点	学習内容・学習活動	指導上の留意点	資 料
つ か む 10 分	1, 自転車によるいろいろな事故事例 ・学習のねらいや方法を理解する。 ・交通事故の VTR 視聴	・事故体験のある生徒にけがの状況をまとめさせておく。 ・班に分ける。5～7人で1班とする。 合計6班(班長1名を選出する。) ・ブレインストーミングについて説明をする。	場 面 絵 ・ 新 聞 等
探 る 15 分	2, 交通状況の判断と安全な自転車乗用 (1) 交通状況の読みとり (状況・予測・回避) ・ワークシートに記入する。 (自由に意見を出し合う) ・意見について班でまとめる。 ・司会を中心にして発表し、問題場面を知る。 (2) 起こりうる危険の予測 ・人的要因・環境要因・心理面から理由を考える。	・自転車による事故にもいろいろな種類があることを分からせる。 ・事故を自分の問題として受け止めさせる。 ・ブレインストーミング手法を取り入れる。 ・どの意見も受け入れることを基本とする。 ・理由を話し合わせる。 ・観察の深い意見に注目し、評価する。 ・回避の方法は一つでないこともあるので、根拠に触れさせ受け入れるようにする。	ワ ー ク シ ー ト
見 付 け る 15 分	(3) 危険回避方法 ・起こりやすい危険と思われるものを一つだけ取り上げ班内で意見を出し合う。 ・どうしたら道路を安全に渡れるか、安全行動を考え、ワークシートに書き込み自由に意見を出し合う。 ・班毎にまとめたものを発表する。 (4) 選定した回避方法を検証	・起こりやすい危険と思われるものを一つ取り上げさせて、どうして事故が起きたか考えさせる。 ・危険回避の方法をワークシートに書き込ませ、自由に意見を出し合い深めさせる。 ・生徒の取り上げなかった危険に触れさまざまな危険があることを認識させ、どれに対しても対応しなければならないことを理解させる。 ☆どうしたら安全な行動ができるか考えている。(思・判・表)【観察・発言】 ・自分なりの行動基準とその有効性を検証する。	ワ ー ク シ ー ト
決 め る 10 分	3, 各自が危険を予測した自転車の安全な乗用の実践方法の決定 ・班の代表者がまとめを全体に発表する。 ・ルールやマナーの大切さを理解し、危険を予測した安全な行動目標を決める。	・事故の加害・被害者にならないように注意を与える。 ・事前に危険予測することの大切さを理解させる。 ・各自が危険を予測した安全な行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。	

○危険予測トレーニング

・紙上において、具体的な交通場面を設定し、①交通状況を読み取る。②危険を予測する。③危険回避を考える。以上の3項目において机上トレーニングを行うものである。

○期待される効果

・学習を通じて養われた危険予測・回避能力が、実際の生活場面において体験されることで、事故防止につながる。

○評 価

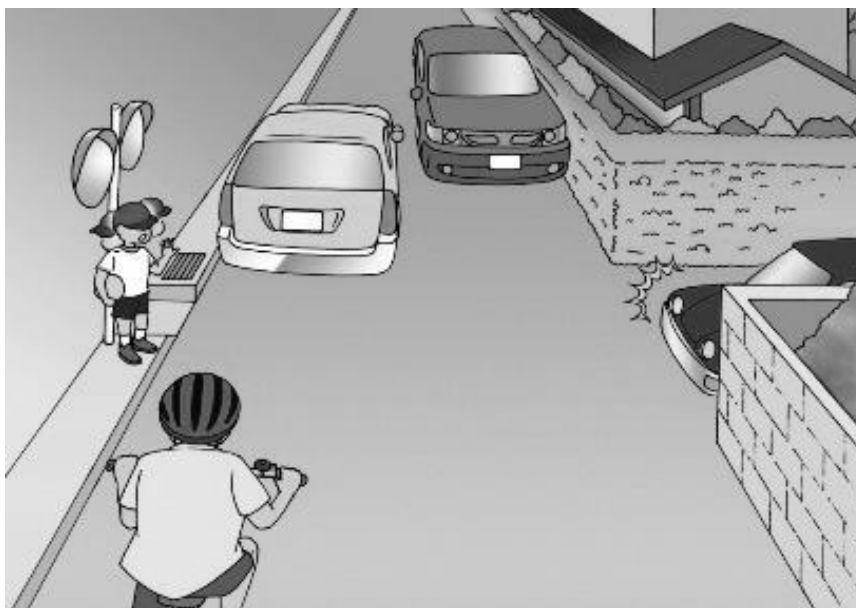
①自転車事故の原因(状況)が理解でき、原因を取り除こうとする心情が養えたか。

②危険の予知・予測の重要さが理解できたか。

「危険を予測する」 ワークシート

氏名 _____

- あなたは、狭い道路を自転車で右折しようとしています。



1, この場面から、どのような交通の様子を読み取れますか？【交通状況の把握】

2, この場面から、どのような危険が予測できますか？【危険の予測】

3, その危険を避けるためには、どうしたらよいでしょうか？【危険の回避】

中学校3年生「加害者としての責任」

目標	「被害者になった時の痛み」と「加害者としての責任」について理解するとともに、自転車事故の危険性や交通ルールについて理解する。
----	--

指導案

観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点	資料
導入 10分	1, 自転車によるいろいろな事故 ・自転車による事故の現状について、事例を発表する。 ・事前に新聞などで、事故原因等を調べておく	・事前調査の結果から、被害事故だけではなく加害事故の現状にも目を向けられるようにする。	場面絵・調査
展開 30分	2, 事故例と交通ルール ・⑨事故ケース1, 2 (動画) を視聴し、事故の原因についてまとめる。 事故ケース1「駐停車トラック」側方通過 事故ケース2「歩道携帯電話使用」 3, 事故が及ぼす影響 ・事故に伴う、被害者と加害者双方の立場について話し合い、発表する。 ・家族への影響についても考える。 4, 事故の責任と補償 ・事故ケースを視聴し、加害者側の責任と補償について理解する。 ・身近な保険制度加入と義務化の流れを理解する。	・事故ケース (動画) を視聴した後、事故の直前の映像に戻し、「なぜ」「どうして」に視点をあてる。 二人乗り、並進、傘差し運転、携帯電話使用運転など、中学生が違反しがちな交通ルールを確認させる。 ・自転車安全利用五則の確認 ・事故には大きな責任と賠償が伴うことを具体的に理解させる。 ・中学生も交通事故の加害者となる立場にあり、事故に伴う責任の内容を正確に知らせる。 ・自転車の安全走行について、より深い理解を持ち、正しい判断・マナーが身に付くようにさせる。 ・身近な保険制度 (T S マーク付帯保険) 等について理解させる。	ワークシート・動画
終末 10分	5, 自転車の安全な乗用 ・ルールやマナーの大切さを理解し、危険を予知・予測した安全な走行の大切さを学び、事故防止の心構えをまとめたり、発表したりする。	・日常の自転車点検、整備の仕方の基本等にも触れる。 ・通学路等で必要な安全確認のポイントを具体的に補足する。	

☆評価

- ①被害者になった時の痛みや加害者としての責任について理解できたか。
- ②事故の責任と補償について理解し、安全走行ができるようになったか。

【自転車事故損害賠償事例】

○自転車安全利用五則

- ①車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- ②交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- ③夜間はライトを点灯
- ④飲酒運転は禁止
- ⑤ヘルメットを着用

	事故内容	賠償金
①	小学校高学年【11歳】の男子が夜間、帰宅途中に自転車で走行中に歩道と車道の区別のない道路において歩行中の82歳の女性と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態になりました。	約9,500万円
②	男子高校生が朝、赤信号で交差点の横断歩道を自転車で走行中、旋盤工 (62歳) の男性が運転するオートバイと衝突し、旋盤工は頭蓋内損傷で13日後に死亡した。	約4,000万円
③	携帯電話を操作しながら無灯火で運転していた18歳の女子高校生が乗っていた自転車が前を歩いていた54歳の女性に衝突しました。歩行者の女性は転倒して歩行困難になり仕事を辞めざるを得なくなりました。	約5,000万円

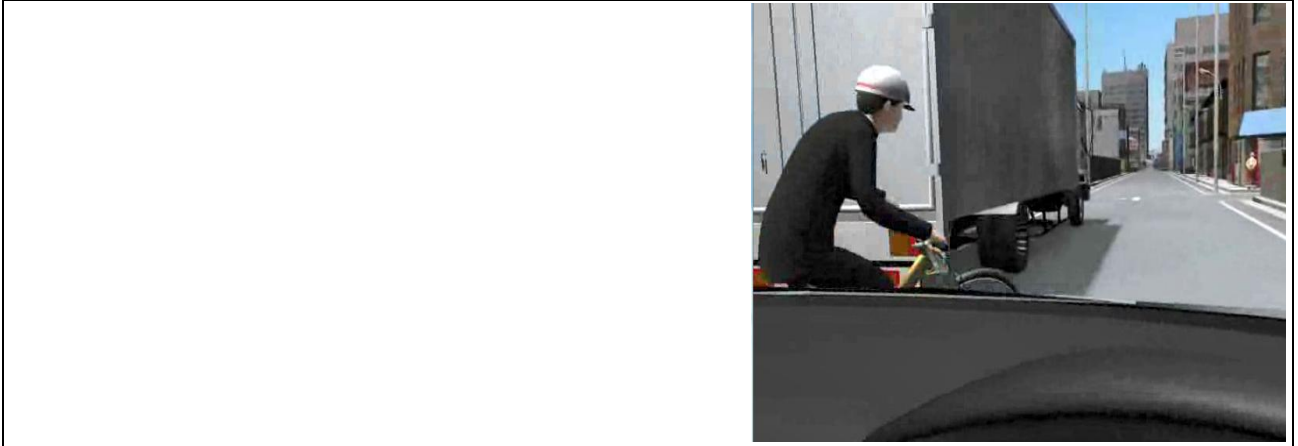
「加害者としての責任」 ワークシート

氏名 _____

●事故ケース1『駐停車トラック側方通行時の事故』

ケース1の事故はどうして起こったのだろう。

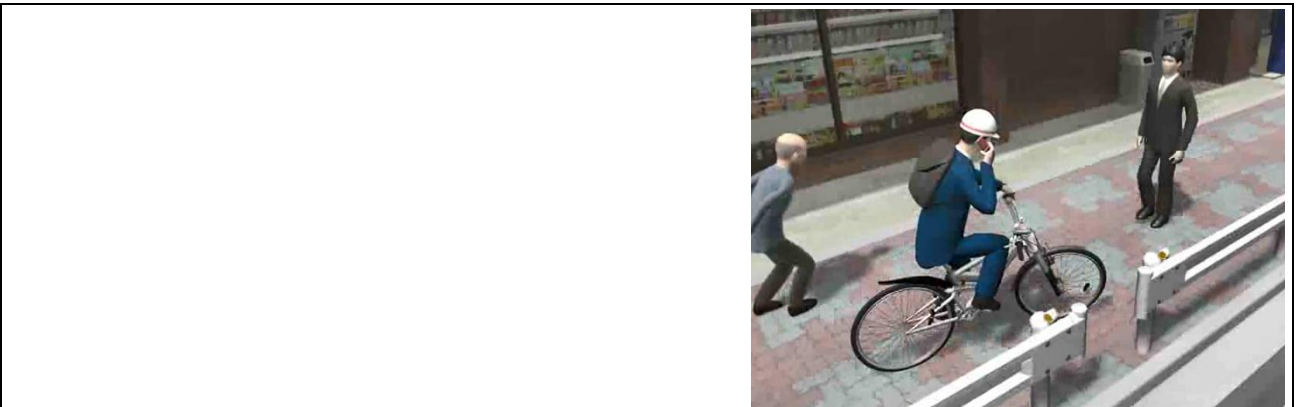
原因を書いてみよう。



●事故ケース2『携帯電話使用時の事故』

ケース2の事故はどうして起こったのだろう。

原因を書いてみよう。



●自分が事故を起こしてしまった場合どのような責任を問われるか、3つあげてみよう。

1	
2	
3	

●事故防止の心構えについて、今日の学習を振り返ってまとめてみよう。

--

指導案

(短時間扱い)

① 小学校低学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	こうつうルール ほこう		
ねらい	・ 交通法規（ルール）の意義が理解できるようにする。 ・ 歩行における、危険を予測することができるようにする。 ・ 交通社会の一員として、他者を尊重したマナーのある行動ができるようにする。		
観点	学習内容・活動内容	指導上の留意事項（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。 道路をひろがって歩いています。どんな危いことが起こりそうですか？ 	・ 交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り） ・ 道路の真ん中を歩いている。 ・ 横に広がって歩いている。 ・ ふざけあっている。 ・ 話に夢中になっている。 ・ 後ろから車が来ている。	場面絵
展開	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。 3 「道路を安全に歩く方法」について話し合う。	T 「どんな危いことが起こりそうですか？」 ・ 交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 （なぜ危険なのか理由を明らかに） T 「どんな歩き方をすれば安全ですか？」 ○歩く場所 ・ 右側通行 ・ 歩道のあるところは歩道内 ○歩き方 ・ 一列歩行 ・ 前を見て歩く ・ 通学路（登下校時） ○道路を渡る場所 ・ 信号、横断歩道、歩道橋 等 ○標識 ・ 「止まれ」「横断歩道」等 ○その他 ・ 雨天時、踏切 等 ☆どんな歩き方をすれば安全か考えている。（思・判・表）【観察・発言】 「もしかして…」という危険予測の意識、「一時停止」「左右確認」の徹底	ワークシート
終末	○安全行動を適用する。 4 道路を安全に歩く方法について自分のめあてを持つ。	T 「安全に道路を歩くためのめあてを考えましょう。」 ・ 各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ・ 児童から出ない安全行動は、教師が補足をする。 ☆安全な歩き方について、自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「こうつうルール ほこう」ワークシート

なまえ

- 1 どうろを ひろがって あるいています。どんな あぶないことが おこり
そうですか？ （○をつけましょう。）



- 2 あんぜんにあるための、「めあて」をかながえましょう。

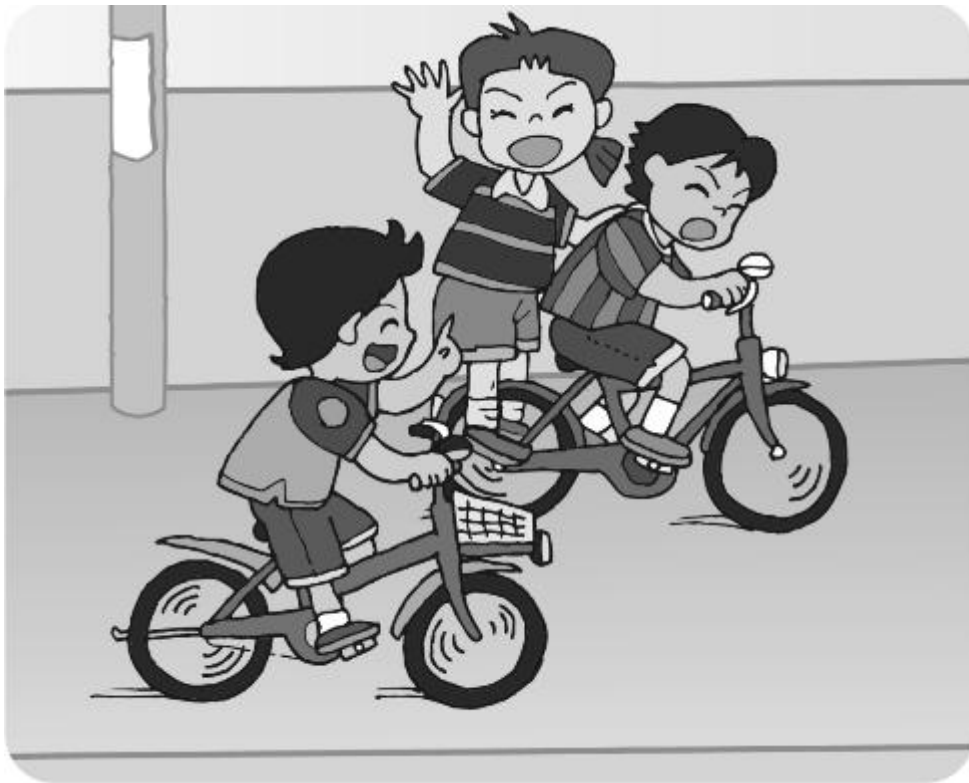
②小学校低学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	こうつうルール じてんしゃ		
ねらい	・交通法規（ルール）の意義が理解できるようにする。 ・自転車乗用における、危険を予測することができるようにする。 ・交通社会の一員として、他者を尊重したマナーのある行動ができるようにする。		
観点	学習内容・活動内容	指導上の留意事項（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。 道路を二人で自転車に乗っています。どんな危ないことが起こりそうですか？ 	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り） ・道路の真ん中を走っている。 ・ふざけあっている。 ・ヘルメットをかぶっていない。 ・前を向いて走っていない。	場面絵
展開	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。 3 「自転車を安全に乗るための方法」について話し合う。	T「どんな危ないことが起こりそうですか？」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 （なぜ危険なのか理由を明らかに） T「どんな自転車の乗り方をすれば安全ですか。」 ○走る場所 ・左側通行（車道の左側） ※小学生は歩道通行可 ○乗り方、走り方 ・ヘルメット着用 ・「3つの左」 ①左側から乗る ②左側通行 ③左側に降りる ○自転車点検 ・後方確認 ・体格に合ったもの（両足がつく） ・「ブタベルサハラ」（ブレーキ・タイヤ・ベル・サドル・ハンドルと反射器・ライト） ○歩行者への配慮、加害の危険性 ☆どんな自転車の乗り方をすれば安全かを考えている。（思・判・表）【観察・発言】 ・並走禁止 ・2人乗り禁止 ・傘差し運転禁止 ・無灯火禁止	ワークシート
終末	「もしかして…」という危険予測の意識、「一時停止」「左右確認」の徹底 ○安全行動を適用する。 4 安全に乗るための方法について自分のめあてを持つ。	T「自転車を安全に乗るためのめあてを考えましょう。」 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ・児童から出ない安全行動は、教師が補足をする。 ☆安全な自転車の乗り方について、自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「こうつうルール じてんしゃ」ワークシート

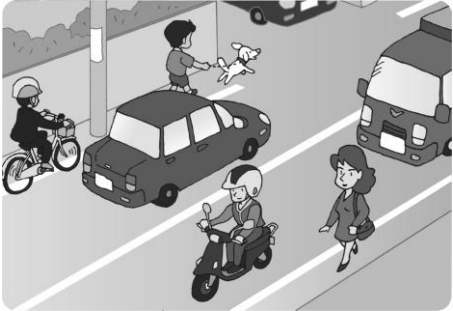
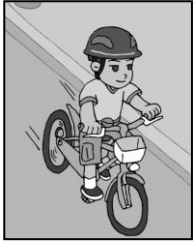
なまえ

- 1 どうろを ふたりで じてんしゃに のっています。どんな あぶないことが おこりそうですか？ （○をつけましょう。）



- 2 あんぜんに のるための、「めあて」をかんがえましょう。

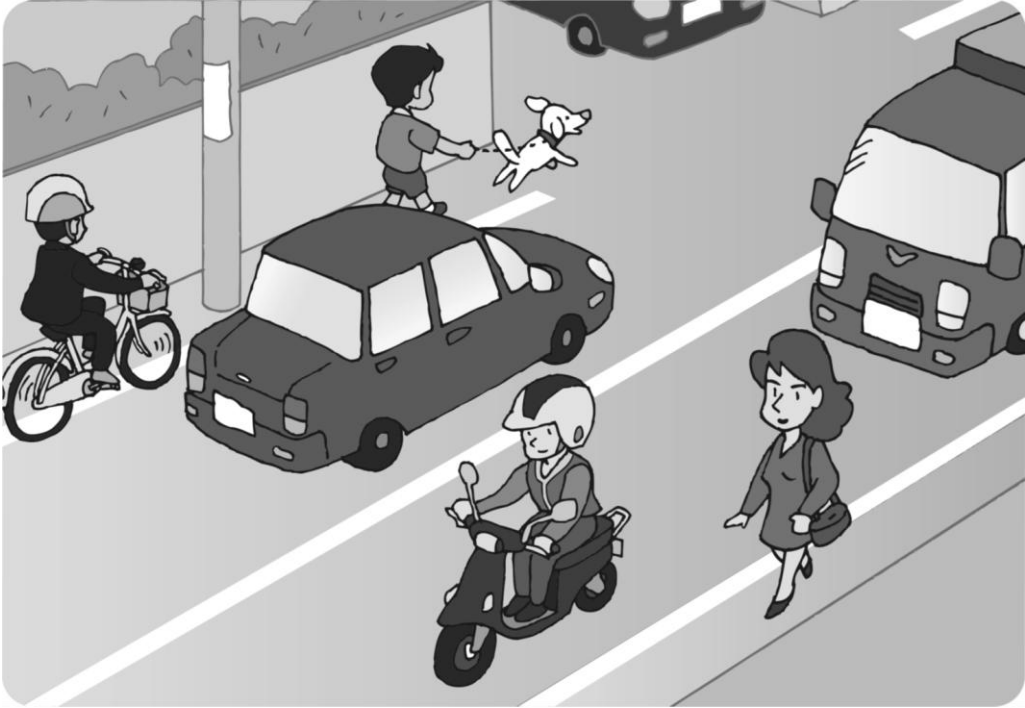
③小学校低学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	じてんしゃにのるとき		
ねらい	・自転車に乗るときの安全な場所を知り、自転車の正しい発進・停止ができるようにする。 ・安全に自転車に乗ろうとする意欲を持つことができる。		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り） 道路で自転車に乗るときに、どんな危ないことが起こりそうですか？  ・自動車が多く走っている。 ・バイクが走っている。 ・歩行者がいる。 ・道路が狭い・電信柱がある。	場面絵
	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。 3 自転車に乗るために安全な場所について話し合う。 4 正しい発進・停止の仕方を知る。	T「どんな危ないことが起こりそうですか。」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 （なぜ危険なのか理由を明らかに） ・道路には多くの危険があり、安全な走行のための技能や知識がまだ十分に身に付いていないことに気づかせる。 T「自転車に乗るには、どんな場所が安全ですか。」 ・低学年という発達段階から、自転車に乗る場所として、広場・公園・人通りの少ない道路などの安全な場所が望ましいことを考えさせる。 ・道路では大人と一緒に乗り、安全な場所までは自転車を押していくようにさせる。 T「自転車の正しい乗り方、降り方について考えましょう。」 ・前後の確認をし、左側から乗り降りするように心がけるようにさせる。 自転車の基本的な乗り方「3つの左」 左側から乗る  → 左側を走る  → 左側に降りる 	ワークシート 正しい発進・停止の仕方の図
終末	○安全行動を適用する 5 自転車を安全に乗るための自分のめあてを持つ。	T「自転車を安全に乗るためのめあてを考えましょう。」 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆自転車を安全に乗るための自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「じてんしゃにのるとき」ワークシート

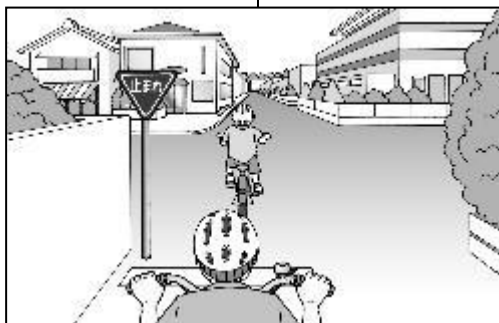
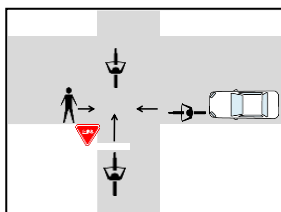
なまえ

1 どうろで じてんしゃに のるとき どんな あぶないことが おこりそうですか？（○をつけましょう。）



2 じてんしゃを あんぜんに のるための、「めあて」をかながえましょう。

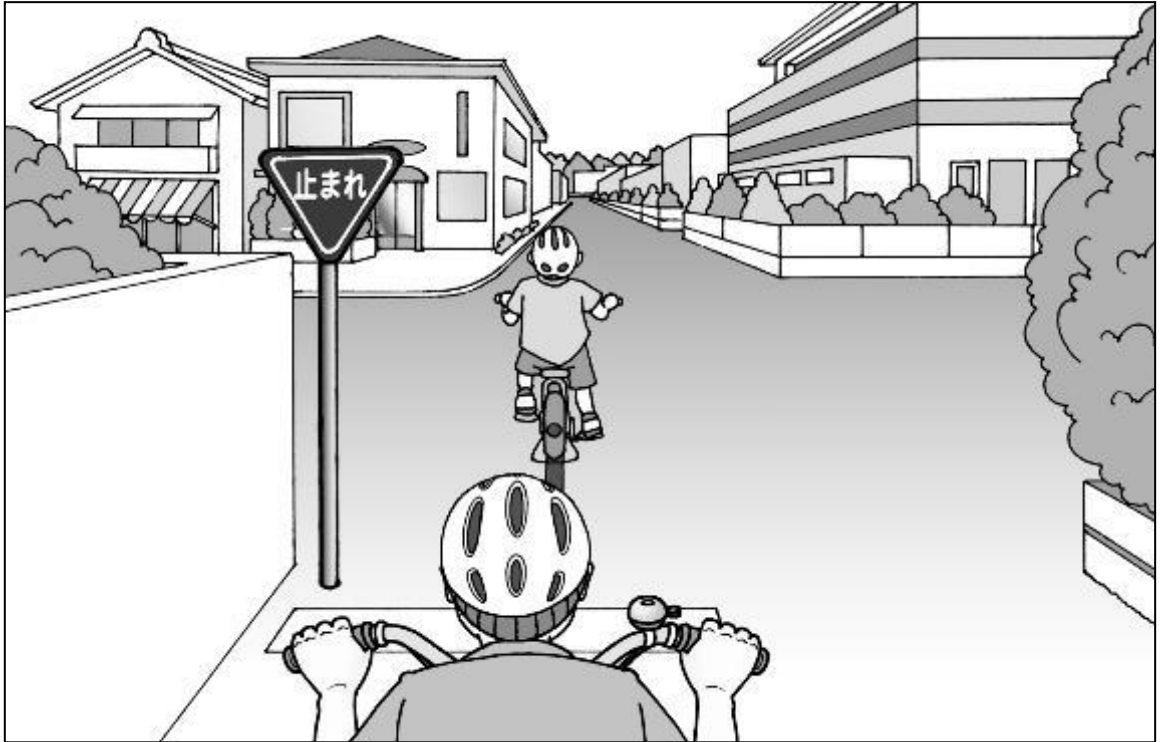
④小学校低学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	じてんしゃで とびだしをしたら！		
ねらい	・飛び出しによる事故の怖さを理解し、飛び出しをしないで安全に自転車に乗ることができる。		
観点	学習内容	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り） じてんしゃで、とびだしをしたら、どんなあぶないことがおこりそうですか？  ・前に交差点がある。 ・友達が先を走っている。 ・「止まれ」の標識がある。 ・へいや木のため見通しが悪い。	場面絵
	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。 3 交差点での正しい運転行動について話し合う。	T「どんな危ないことが起こりそうですか。」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに） ・道路の見えない場所から、車や自転車、歩行者とぶつかる危険があることを考えさせる。 T「どうしたら交差点を安全に走れるでしょうか。」 ○「止まって左右の安全確認をする」という児童の反応に、「なぜ止まる必要があるのか」を考えさせる補助発問を行う。 ・左右が見えず、車や自転車、歩行者が来るかもしれないこと。 ・事故にあってしまったら、自分も大変、周囲の人も悲しむこと。 ・「止まれ」の標識や道路標示があるところでは車や自転車、歩行者も必ず止まらなければいけないこと。  ○俯瞰図（左図）を用いて検証する。 ☆どうしたら交差点を安全に走れるか考えている。（思・判・表）【観察・発言】	
終末	○安全行動を適用する 4 交差点での安全な走り方について自分のめあてを持つ。	T「安全に走るためのめあてを考えましょう。」 ・「止まれ」の標識がある交差点ではもちろん、標識がない交差点でも必ず止まって安全を確かめる約束をする。 ・指導絵図もできるだけ大きく、見やすく提示する。 可能ならばパソコンとプロジェクターを利用する。 ☆交差点での安全な走り方について自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「じてんしゃで とびだしをしたら！」ワークシート

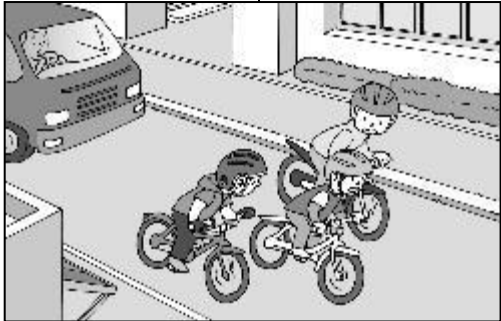
なまえ

- 1 じてんしゃで とびだしをしたら どんな あぶないことが おこりそうですか？ （○をつけましょう。）



- 2 あんぜんに はしるための、「めあて」をかながえましょう。

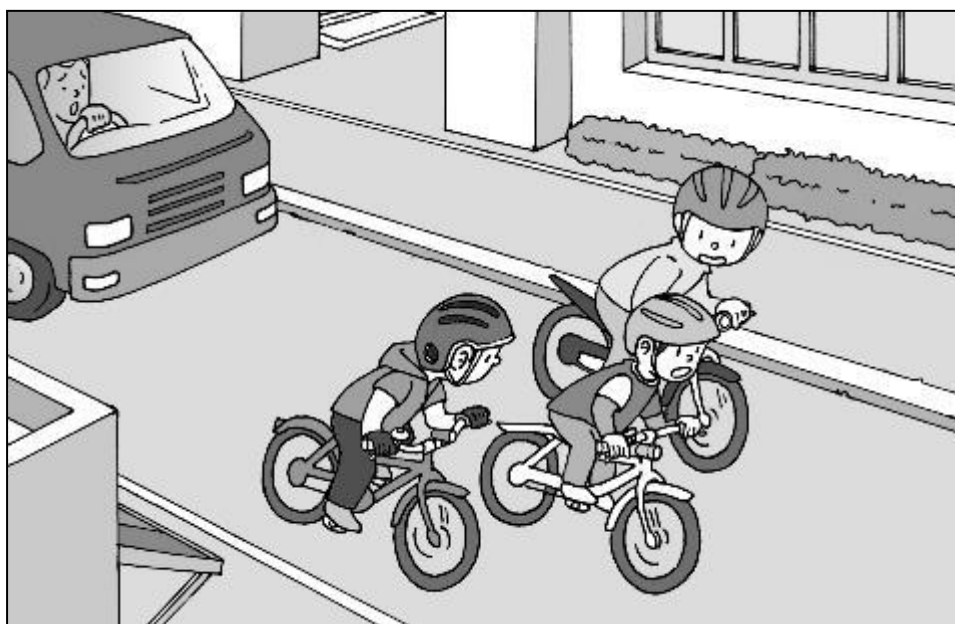
⑤小学校中学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	並んで走ったり、大ぜいで走るきけん		
ねらい	・並進・集団走行の危険を知り、正しく道路走行をしようとする意欲と態度を育てる。 ・潜在的な危険を読み、自転車の安全な運転ができるようにする。		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り） ・並進や集団走行の危険について理解させる。 道路で自転車にのるとき、並んで走ったり、大ぜいで走ったりすると、どんな危険が起こりそうですか？	場面絵
		・自転車が横に並んで走っている。 ・自転車が道路の真ん中を走っている ・自転車の後ろから車が走ってくる。 ・話に夢中で前を向いて走っていない。	
展開	○場面を分析する。 2 道路での危険を予測する。 3 自転車の乗り方から事故を防ぐにはどうしたらよいか考える。	T「道路を並んで走るとどんな危険が起こりそうですか。」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに） ・並進や集団走行することで、どんな事故が起こりやすいか考えさせる。 T「自転車で安全に道路を走るにはどうしたらいいですか。」 ・1列で走る。 ・スピードを出しすぎない。 ・ふざけない。 ・交通ルールを守る。 ○態度面だけではなく、心理面についてもふれるようにする。 ☆どうしたら自転車で安全に道路を走れるか考えている。（思・判・表）【観察・発言】	ワークシート 正しい自転車走行の場面絵
終末	○安全行動を適応する 4 道路の正しい走り方について自分のめあてを持つ。	T「自転車で安全に道路を走るためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、自転車走行についての自分のめあてを考えさせる。 ・本時の学習をもとに日常の生活に役立てようとする意欲を持たせる。 ☆自転車で安全に道路を走ることについて自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「並んで走ったり、大ぜいで走るきけん」ワークシート

名前 _____

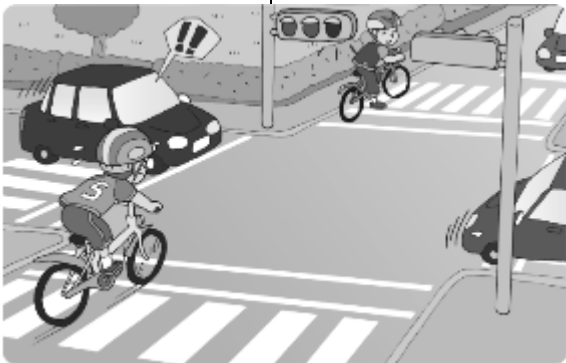
- 1 道路で自てん車にのるとき、並んで走ったり、大ぜいで走ったりするとどんなきけんがおこりそうですか？ ○をつけて、ことばで書きこみましょう。



- 2 自てん車で安全に道路を走るにはどうしたらいいですか？

- 3 自てん車で安全に道路を走るための「めあて」を考えましょう。

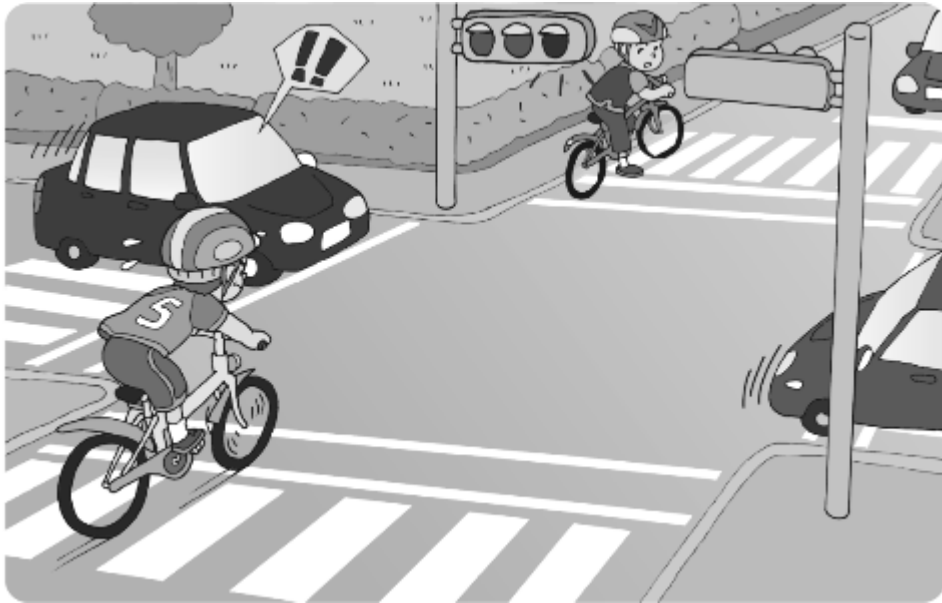
⑥小学校中学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	信号むしのきけん		
ねらい	・信号の意味、交通法規の意義が理解できるようにする。 ・自転車乗車中における信号無視の危険を予測することができるようにする。 ・交通社会の一員として、ルール・マナーを守った運転ができるようにする。		
観点	学習内容・活動内容	指導上の留意事項（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。 自転車に乗っているとき、前の信号が赤色になりました。 どんな危険が起こりそうですか？ 	・交通場面から読みとれるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り） ・自転車が交差点に入ろうとしている。・信号は赤である。 ・車が動こうとしている。 ・前に行く友達に追いつこうとしている。	場面絵
展開	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。 3 事故の理由・安全行動を考える。	T「どんな危険が起こりそうですか？」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 （なぜ危険なのか理由を明らかに） T「自転車で安全に交差点を走るには、どうしたらいいですか？」 ・原因追求をし、事故にあわないための具体的な行動を考える。 ・間違った行動や、児童が見おとしている内容について、教師が確実に補足する。 【人的要因】 ・油断（たぶん大丈夫） ・あせり（いそがなくちゃ） ・不注意（おしゃべり） ・信号を待つことのリスクを大きいと感じる。 （今渡らないと、長い時間待たされる。）  「一時停止」「左右確認」の徹底 ☆どうしたら安全に交差点を走れるか考えている。（思・判・表）【観察・発言】	ワークシート
終末	○安全行動を適用する。 4 安全に交差点を走るために自分のめあてを持つ。	T「自転車で安全に交差点を走るためのめあてを考えましょう。」 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆安全に交差点を走るために自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「信号むしのきけん」ワークシート

名前 _____

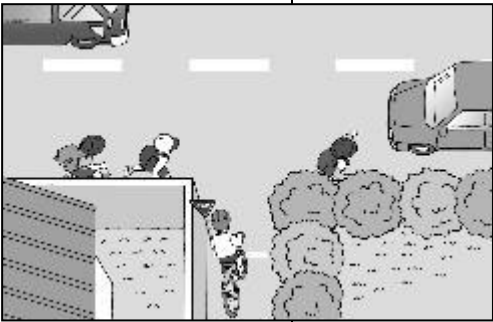
- 1 自てん車に乗っているとき、前の信号が赤になりました。
どんなきけんがおこりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）



- 2 自てん車で安全に交差点を走るにはどうしたらいいですか？

- 3 自てん車で安全に交差点を走るための「めあて」を考えましょう。

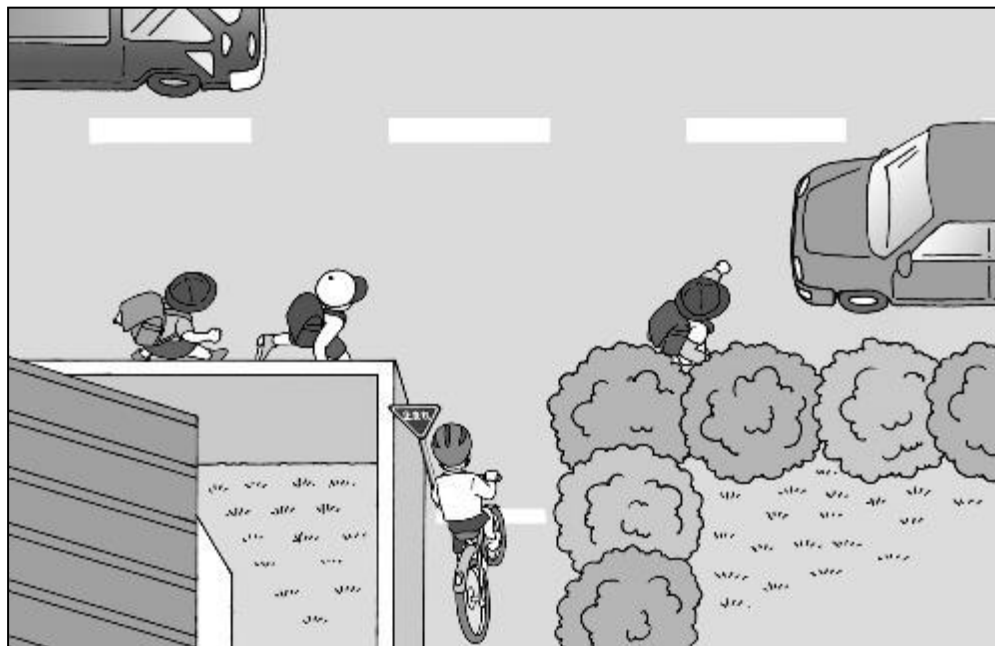
⑦小学校中学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	自てん車で狭い道から広い道に出るとき		
ねらい	・飛び出しの危険性を理解し、飛び出しをしないで安全に自転車に乗ることができるようにする。		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。	・交通場面から読みとれるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り） ・細い道から広い道に出るときには、事故に遭うことが多いことを意識させる。 自転車で狭い道から広い道へ出ようとしています。 どんな危険が起こりそうですか？  ・自転車が広い道に出ようとしている。 ・右側から車が走ってくる。 ・左側から小学生が走ってくる。	場面絵
展開	○場面の分析をする。 2 起こりうる事故を予測する。 3 事故の理由・安全行動を考える。	T「どんな危険が起こりそうですか。」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに） 〔 左側から歩行者が来ていて、飛び出したらぶつかる。 右側から自動車が出てきて、飛び出したらぶつかる。 〕 T「自転車で安全に広い道に出るにはどうしたらいいですか？」 ・危険を予測して回避するために、減速したり一時停止したりすることの大切さをしっかり理解させる。 「しっかり見る」 → 広い道に出るときには一時停止して左右の確認をする。 「相手からの視点を考える」 → 見えないところの状況を予測しながら走行する。 「安全のための行動」 → ブレーキを使って減速する。必ず一時停止する。	ワークシート
終末	○安全行動を適用する。 4 見えない危険を予測して、安全に乗るための自分のめあてを持つ。	T「自転車で安全に広い道に出るためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにしてめあてを考えさせ、児童が安全に自転車に乗るような意識をもつようにする。 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆自転車で広い道に出るための自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「自てん車で狭い道から広い道に出るとき」ワークシート

名前 _____

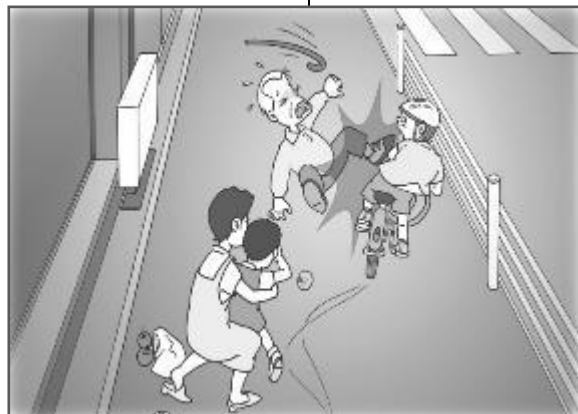
- 1 自てん車で狭い道から広い道へ出ようとしています。どんなきけんがおこりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）



- 2 自てん車で安全に広い道に出るには、どうしたらいいですか？

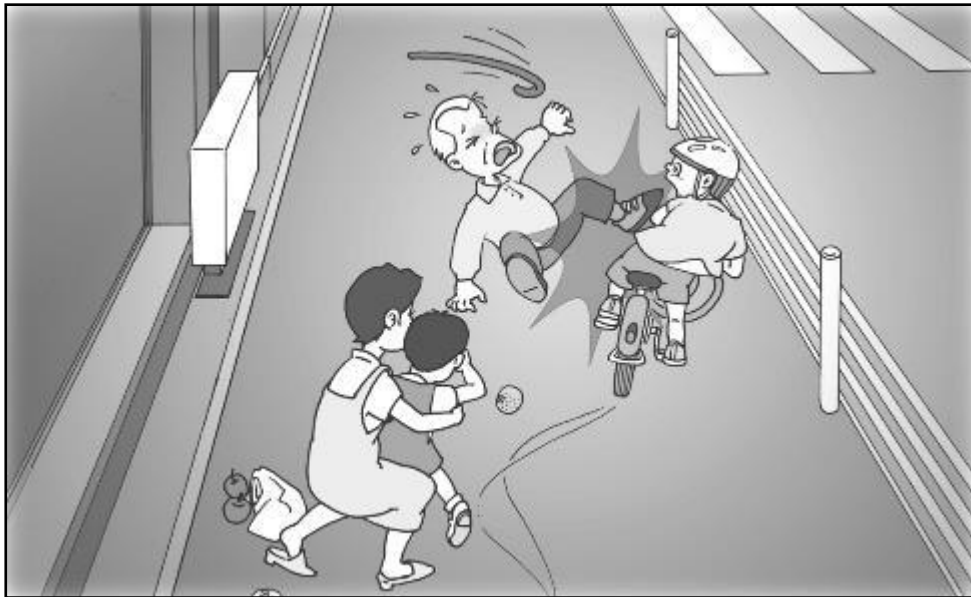
- 3 自てん車で安全に広い道に出るための「めあて」を考えましょう。

⑧小学校高学年 （短時間扱い）

題材名	加害者にならないために												
ねらい	・ 事故を起こしたときの責任と補償について理解し、自転車の安全な走行ができる。												
観点	学習内容	指導上の留意点（・）と評価（☆）		資料									
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。	・ 交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り）		場面絵									
	自転車歩道走行時の危険 												
展開	○場面を分析する。 2 加害事故の想定ケースに絞り、責任の大きさを考える。	T「加害者になってしまったときの責任について話し合いましょう。」 ・ 自転車の加害事故事例を活用し、次の4つの視点から、責任の大きさを考えられるようにする。 ①被害にあった人の痛み・苦しみ ②被害にあった人の家族の悲しみ ③加害者（自分）の家族のつらさ ④補償責任 ・ 「(大丈夫) だろう」ではなく、「もしかしたら～」という心の目で危険を予測していく重要性を指導する。 補償金額例		ワークシート									
	<table><thead><tr><th></th><th>事故内容</th><th>賠償金</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>小学校高学年【11歳】の男子が夜間、帰宅途中に自転車で走行中に歩道と車道の区別のない道路において歩行中の82歳の女性と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態になりました。</td><td>約9,500万円</td></tr><tr><td>②</td><td>男子高校生が朝、赤信号で交差点の横断歩道を自転車で走行中、旋盤工（62歳）の男性が運転するオートバイと衝突し、旋盤工は頭蓋内損傷で13日後に死亡した。</td><td>約4,000万円</td></tr><tr><td>③</td><td>携帯電話を操作しながら無灯火で運転していた16歳の女子高校生が乗っていた自転車が前を歩いていた54歳の女性に衝突しました。歩行者の女性は転倒して歩行困難になり仕事を辞めざるを得なくなりました。</td><td>約5,000万円</td></tr></tbody></table>				事故内容	賠償金	①	小学校高学年【11歳】の男子が夜間、帰宅途中に自転車で走行中に歩道と車道の区別のない道路において歩行中の82歳の女性と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態になりました。	約9,500万円	②	男子高校生が朝、赤信号で交差点の横断歩道を自転車で走行中、旋盤工（62歳）の男性が運転するオートバイと衝突し、旋盤工は頭蓋内損傷で13日後に死亡した。	約4,000万円	③
	事故内容	賠償金											
①	小学校高学年【11歳】の男子が夜間、帰宅途中に自転車で走行中に歩道と車道の区別のない道路において歩行中の82歳の女性と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態になりました。	約9,500万円											
②	男子高校生が朝、赤信号で交差点の横断歩道を自転車で走行中、旋盤工（62歳）の男性が運転するオートバイと衝突し、旋盤工は頭蓋内損傷で13日後に死亡した。	約4,000万円											
③	携帯電話を操作しながら無灯火で運転していた16歳の女子高校生が乗っていた自転車が前を歩いていた54歳の女性に衝突しました。歩行者の女性は転倒して歩行困難になり仕事を辞めざるを得なくなりました。	約5,000万円											
終末	○安全行動を適用する。 3 自分の自転車運転を振り返り、具体的な改善点となるめあてを持つ。	T「今までの自分の運転をふりかえり、これからも事故のない運転をするためのめあてを考えましょう。」 ・ 児童が、自分自身の言葉で学習をまとめる活動にする。 ・ 自分のこれまでの自転車運転を振り返り、具体的な改善点を目標にできるようにする。☆自転車運転の自分の改善点となるめあてを決めている。											

「加害者にならないために」 ワークシート

名前 _____

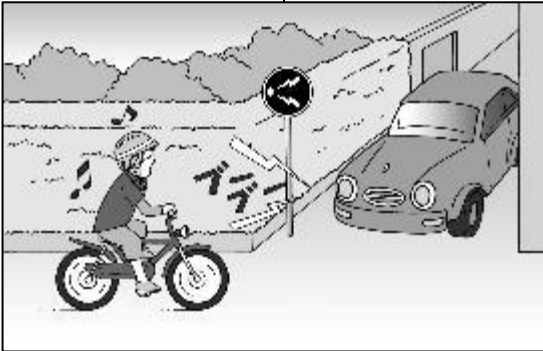


- 1 自転車で歩道を走行しているとき、どんな危険がおこりそうですか？

- 2 加害者になってしまったときの責任について話し合しましょう。

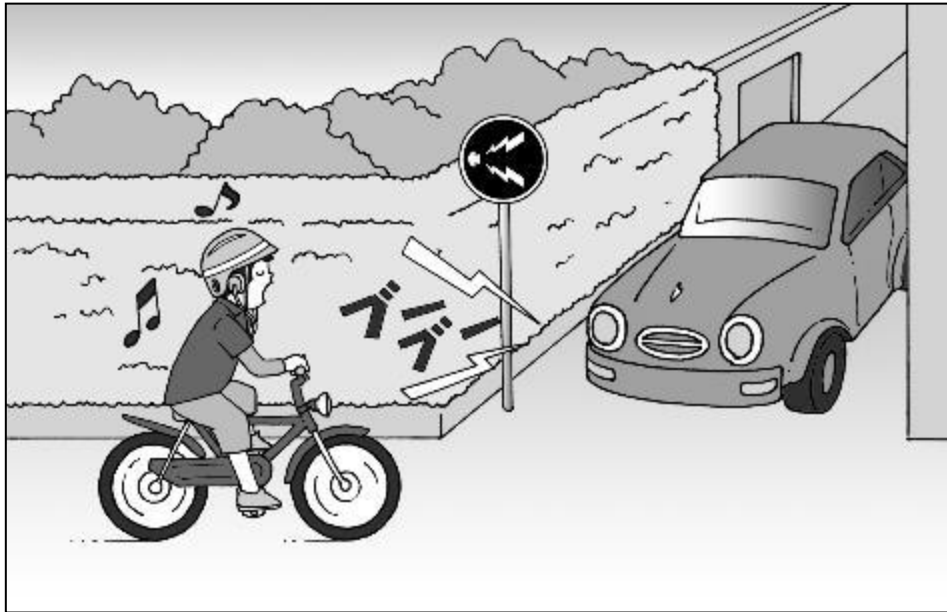
- 3 今までの自分の運転をふりかえり、これからも事故のない運転をするための「めあて」を考えましょう。

⑨小学校高学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	イヤホンを使いながら自転車で走行するとき		
ねらい	・イヤホンで音楽を聴いたり、携帯電話を使用したりしながら、自転車を運転する際の危険性に気づき、状況に応じた安全な走行ができる。		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。 イヤホンを使いながら自転車で走行しています。 どんな危険が起こりそうですか？ 	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り） ・自転車で乗ってイヤホンで音楽を聴いている。 ・前をよく見ていない。 ・車がクラクションを鳴らしている。 ・クラクションの音が聞こえていない。	場面絵
	○場面分析をする。 2 起こりうる事故を予測する。 3 事故の理由・安全行動を考える。	T「どんな危険が起こりそうですか。」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 （なぜ危険なのか理由を明らかに） ・場面の状況の細かい部分にも着目させ、様々な危険について予測する。 T「なぜイヤホンを使いながら自転車で走行すると危険なのでしょう。自転車を安全に乗るにはどうしたらいいですか。」 ・人物の心理状態や置かれている状況等にも注目させる。 ・発表された危険は、どのようにしたら避けられるかについて考えを発表させる。 ・携帯電話の使用や音楽を聴きながらの自転車の運転をしないように心がけさせる。	ワークシート
終末	○安全行動を適用する。 4 自転車を安全に乗るための自分のめあてを持つ。	T「自転車を安全に乗るためのめあてを考えましょう。」 ・自転に乗る場合は、運転に集中し、音楽を聴いたり、携帯電話を使用したりしながらの運転をしないことをめあてにさせる。 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆自転に安全に乗るための自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「イヤホンを使いながら自転車で走行するとき」ワークシート

名前 _____

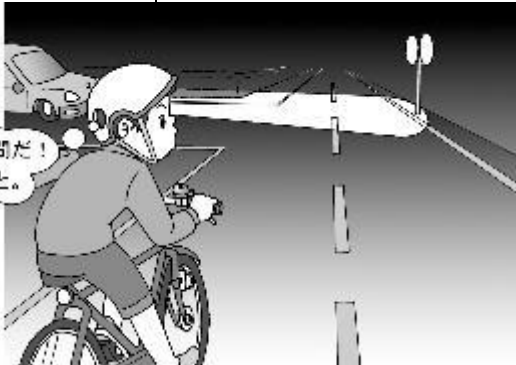


- 1 イヤホンを使いながら、自転車で走行しています。どんな危険が起ころうですか？

- 2 なぜ、イヤホンを使いながら自転車で走行すると危ないのでしょうか？
自転車を安全に乗るには、どうしたらいいですか？

- 3 自転車を安全に乗るための「めあて」を考えましょう。

⑩小学校高学年 特別活動（短時間扱い）

題材名	無灯火運転の危険		
ねらい	・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。 ・夜間時における、自転車の適切な運転方法を身につけられるようにする。 ・交通社会の一員として、ルール・マナーを守った運転ができるようにする。		
観点	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・）と評価（☆）	資料
導入	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 （どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
	夜、ライトをつけずに自転車で走行し、スピードを落とさずに交差点に近づきました。どんな危険が起こりそうですか？ 	・夜間 ・暗くて見えない ・自転車のライトなし ・前に車がきている ・急いでいる	
展開	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。	T 「どんな危険が起こりそうですか。」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 （なぜ危険なのか理由を明らかに） 自動車が右左折して衝突する。 右車線によけてもライトをつけてないため、気づかれずに衝突。	ワークシート
	3 事故の理由・安全行動を考える。	T 「なぜライトをつけずに自転車で走行すると危ないのでしょうか。夜、自転車を安全に乘るにはどうしたらいいのでしょうか。」 ・小学生の事故は、午後に多く、特に 15 時から 18 時頃までが多いため、下校する時間や帰宅後に注意することが大切であることを補足する。	
	具体的な危険回避方法 「しっかり見る」 → ライトをつけて、障害物や異状を確認する。 「しっかり見せる」 → ライトの点灯や反射材の活用、目立つ服装にしたりすることで、自動車や歩行者に自分の存在を知らせる。 「相手からの視点」 → 無灯火の自転車は、自動車からは認識されないため、点灯が大切。また明るい服装のほうがより遠くから認識しやすいため、服装にも注意する。 「安全のための行動」 → 夜間は必ずライトをつけ、交差点では徐行して周囲の確認をする。		
終末	○安全行動を適応する。 4 夜間時の自転車を安全に乘るための自分のめあてを持つ。	T 「夜、自転車を安全に乘るためのめあてを考えましょう。」 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 ☆夜、自転車を安全に乘るための自分のめあてを決めている。（思・判・表） 【ワークシート・発言】	

「無灯火運転の危険」ワークシート

名前 _____



- 1 夜、ライトをつけずに自転車で走行し、スピードを落とさずに交差点に近づきました。どんな危険が起こりそうですか？

- 2 なぜ、ライトをつけずに自転車で走行すると危ないのでしょうか？
夜、自転車を安全に乗るには、どうしたらいいですか？

- 3 夜、自転車を安全に乗るための「めあて」を考えましょう。

■ 編集・発行 ■

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会

〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-9-8 THE WAVES AKIHABARA 7 階
TEL 03(5835)3071 FAX 03(5835)3072 URL <https://www.jatras.or.jp/>

不許無断転載